

市民活動センター あやせよりお知らせ



■リユース PC 綾瀬の1団体に寄贈

公益的な市民活動団体にパソコンを寄贈する、かながわイーパーツリユース PC 寄贈事業の第14回プログラムが実施されました。去る8月26日に茅ヶ崎市役所本庁舎内で贈呈式が行われ、綾瀬では1団体に寄贈されました。次回は2018年8月頃に実施予定です。

■あやせ地域づくりカレッジがスタート

去る10月7日、保健福祉プラザ会議室で行われた山岡義典氏（法政大学名誉教授）の講演「真に豊かで魅力と活力あふれる地域社会の実現」を皮切りに、全6回の講座、あやせ地域づくりカレッジが始まりました。講演や現地視察、ディスカッションを通して地域づくりについて学ぶことができます。10月17日には座間市へ出向き、回想法プランニングが開催する回想法カフェも視察しました。同カレッジでは途中からの参加も受け付けていますので、希望する方は当センターで配布している資料で詳細をご確認のうえ、0467-70-5613（市役所福祉総務課内あやせ地域づくりカレッジ事務局）までお問い合わせください。

■子どもの貧困と食生活をテーマに 市民活動交流カフェを開催しました

去る10月20日、中央公民館3階講習室で交流カフェを開催、21名が参加しました。本多洋実（日本体育大学児童スポーツ教育学部准教授）、松本篤（NPO 法人ワンエンド理事長）、小林真希（NPO 法人がじゅまるの木理事長）の3氏が子どもたちの直面する貧困と食生活について紹介、参加者からは「自分にとってブラインド的なところを知る機会になった」「困難なことに取り組んでいる人がいることがわかり共感した」などの声が聞かれました。

■「夏休みチャレンジボランティア体験」報告

去る7月18日から9月10日にかけて実施した夏のチャレンジボランティア体験には、募集した23事業に高校生を中心に47名が参加しました。参加者からは「子どもたちと触れ合うと同時に環境について知ることができた」「自分に自信を持って対応しないといけないと学んだ」などの感想がありました。受け入れ団体からは「まじめによくやってくれた」「説明をよく聞き、前向きで好感が持てた」といった意見が寄せられました。体験された方、受け入れ団体のみなさん、暑い中お疲れさまでした。

■パソコン&ポスタープリンター講習会

毎月最終土曜日（12月は第3土曜日）、パソコンの基礎的な操作や当センターにあるポスタープリンターの利用方法の講習会を開催します。

日 時：11月25日、12月16日、2018年1月27日
（いずれも14：00～16：00）

対 象：登録団体の所属、もしくは公益活動をしている方
定 員：5名（要予約、毎月2日から受付）
参加費：100円
場 所：市民活動センターあやせ

※パソコン講習、ポスタープリンター講習を同日開催します。両講習合わせて5名の定員となっており、両方への参加はできません。

市民活動センターあやせ

〒252-1103 綾瀬市深谷 3838 中央公民館内

TEL&FAX：0467-70-1232

Eメール：ayasenposc@gmail.com

開館時間：9：00～22：00

休館日：火曜日、毎月第3水曜日、年末年始

登録団体数：142団体（2017年11月現在）

※ホームページもあります。
「市民活動センターあやせ」で検索してください。



高齢者の元気を支える地域コミュニティ — 互助精神、健康増進の輪を広げる綾瀬の市民活動 —

去る9月1日、綾瀬市の高齢介護課が「アクティブ・シニア応援窓口」（次頁参照）を開設するなど、高齢者の地域参加を支援する取り組みが進められています。今号では、地域に根差した高齢者主体の団体を紹介します。

地域住民の交流をもっと盛んに

寺尾本町さわやかクラブ

寺尾本町地区の住民で組織された寺尾本町さわやかクラブは、2009年に発足しました。「もともとはグラウンド・ゴルフを楽しむグループでした。地域に高齢者が集える場所がなかったので、クラブを新たに立ち上げ、活動の範囲を徐々に広げられました」と田中俊孝会長はその経緯を説明します。現在は会員88名が活動しています。

同クラブでは、自治会が管理する「憩いの家」の運営協力をはじめ、通学時の子どもの見守り活動、地域の清掃活動、会報の発行、会員の誕生日会（年4回）などを行っています。憩いの家では、麻雀や囲碁将棋、テレビゲーム、お茶のみ会の場を提供しています。



グラウンド・ゴルフ部の活動風景



とくに盛んなのが部活動で、会員の半数近くが参加するグラウンド・ゴルフ部、琴を演奏する箏曲部のほか、今年からカラオケ同好会が発足しています。田中会長は「部活動を通じて会員になる方が多く、会員数は年々増えています。今後は若い世代との交流の場を増やし、地域をもっと活性化していきたい」と話していました。

地域参加の入り口となる場所として

上土棚中スマイルクラブ

上土棚中スマイルクラブは、上土棚中地区の住民がつくる団体です。会員の福祉および健康の増進、認知症の予防などを目的としています。現在の会員は63名、黒柳義高会長は「これまでの経験や仕事での役職は関係なく、今の人となりで新しいつながりをつくれる。そんな場所になっています」と話します。



誕生日会の様子



清掃活動をしている様子



研修旅行の様子

同クラブの活動には、年3回の清掃活動や上土棚中地区の自治会や社会福祉協議会などの行事へ積極的に参加することに加え、会報スマイルの発行、研修旅行などがあります。また、カラオケやグラウンド・ゴルフなど、会員同士が集まったグループ活動も盛んです。

黒柳会長によると、基本的には月1回の定例会が活動の中心で、誕生日を迎えた会員を祝うとともに、市内の市民活動団体などから講師を呼んで学ぶ機会を設けているのが特徴です。食生活の改善や健康体操、音楽などさまざまなテーマを学んでいます。「学びを通して他の活動にも興味を持ち、会員の方には掛け持ちで良いからどんどん参加してほしい。地域のつながりを広く太くしていけたらいいですね」と語っていました。

今回取材で共通して指摘されたのが、地域活動への参加に消極的な高齢者がまだまだ多い、ということでした。市内には各地区に同様のコミュニティがあるので、一人でも多くの高齢者に新しいつながりを持ってほしいなと思いました。各団体については下記までお問合せください（掲載順）。

- ※寺尾本町さわやかクラブ
0467-76-3477（田中 俊孝）
- ※上土棚中スマイルクラブ
0467-77-2622（黒柳 義高）

生きがい探しを手助けする アクティブ・シニア応援窓口が開設

去る9月1日、綾瀬市の高齢介護課（市役所1階9番窓口）にアクティブ・シニア応援窓口が開設されました。この窓口では、人事や人材紹介の分野で豊富な経験を持つ4人のキャリアカウンセラーが対応、就労・ボランティア・地域活動・趣味サークルなど希望に沿った情報を紹介しています。

開設2か月で50件以上の相談があり、ボランティアや地域活動に関する問い合わせが多いそうです。キャリアカウンセラーの小原幸雄さんは「特技を活かしたい、空いた時間で活動したい、何かを始めたい、などさまざまな相談に応じています。みなさんと地域を結ぶ仲人

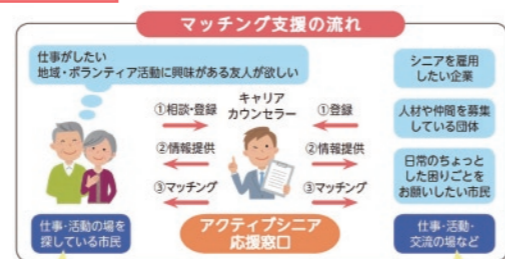
のような存在だと思って、お気軽にご利用ください」と話していました。



キャリアカウンセラーのみなさん

また同窓口では、利用者に提供する仲間や人材を探したい個人や団体の情報も募集しています。綾瀬市ホームページの「アクティブ・シニア応援サイト」に募集情報が掲載されているので、情報を提供する際にはご参照ください。窓口の詳細は以下のとおり。

- 開設日時** 9:00～12:00、13:00～17:00
(月～金曜日、祝日・振替休日・年末年始を除く)
- 利用対象者** ① 仕事の紹介 市内在住の60歳以上の人
② 地域・ボランティア・サークル活動などの紹介 市内で活動できる人
- 相談予約・問合せ** 0467-70-5633（アクティブ・シニア応援窓口）



※市民活動センターあやせも協力しています

綾瀬のいいとこ再発見

第10回 高座豚の豚まんづくり

市内の小学校3年生の総合学習では、名産の高座豚を使った豚まんづくりとその歴史を学ぶ授業が毎年行われています。子どもたちにとって、まちを知り、愛着を持つ体験と言えます。その授業を担当しているのが、今回紹介する高座豚研究班です。遠藤成子代表に話を聞きました。

2003年に発足した同班は、当初は高座豚を使った名産品をつくることが目的でした。「今もそうですが、高座豚は知っているのに、その歴史やおいしさとなると、わからない人がたくさんいます。もっと知ってもらいたいという思いでした」と言います。特産



高座豚の話をしている様子



豚まんづくりの様子

品である高座豚味噌漬けを念頭に考案されたのが味噌あじにこだわった豚まん、その豚まんづくりと高座豚の歴史紹介が主な活動です。

現在は、料理好きの会員が中心で、『おいしく、楽しく、元気に』をキャッチフレーズに掲げています。「総合学習の授業では、料理をまったくしたことのない子どもが増えていると感じるのですが、一方で、料理をつくるのが楽しかったという意見が多い。料理を楽しむ、そのことをより大事に考えるようになりました」と話します。

同班では、月2回の定例会で豚肉を使った料理の研究を続け、各種団体の要望に応じて小学校以外でも教室を開催しています。「豚まんに使う味噌あじのあんは、私たちの教室でしか提供していません。おいしいので、ぜひ一度食べに来てください。一緒に楽しく料理しましょう」と呼びかけていました。関心のある方は 0467-77-9070（遠藤）までお問い合わせください。

綾瀬での豚飼育の歴史

明治22年 八か村が合併して綾瀬村が誕生。この頃は村で2、3頭ほどしか飼育されていなかった

大正14年 村が若者を働かせるために種豚購入補助金を出す。多くの農家が豚の飼育を始めた

昭和7年 イギリスから中ヨークシャー（写真の種豚を購入して品質改良を行った。このときの豚が高座豚の始まり）

昭和10年代 綾瀬の久保泰次さんの豚が全国肉畜博覧会にて最高の「名誉賞」を受賞。高座豚が一躍全国的なブランドとなった

昭和20年代 綾瀬町となったこの時期、各地の品評会等で上位を独占するほど評価された。高座豚生産の黄金時代

昭和30年代 小型で生育が遅いことから大消費時代のニーズに答えられず、徐々に養豚農家が減少していった

昭和40年代 生産の効率化を図るため、デンマークから大型で成長が早いランドレースの種豚を輸入。その後品質改良され現在の高座豚の源流となる

昭和50年代以降 綾瀬市となり、環境等の理由で多くの豚舎が他県へ移転したが、養豚農家の努力で品質改良が重ねられ、高座豚のブランドが復活、現在に至る

※高座豚研究班「高座豚のお話」資料NO.1、NO.2から抜粋して要約